

DXを推進する部門マネジメント

DXが進みやすいチームの在り方や、DX時代の特徴を踏まえて、管理者・リーダーが実践すべき部門マネジメントを網羅的に理解します。理論だけでなく、具体的な問いかけやアクションの方法を身に着け、すぐに実践に移す方法を学びます。

<本コースのねらい>

- 様々なスキルや能力を持つ部下を活かしてチームで成果を出すための手法を身に着けます。
- より具体的な問いかけの言葉を身に着け、すぐに実践できる力を身に着けます。


<カリキュラム>

1. DXが進みやすい組織づくり
2. 部下・メンバーの心理的安全性を高める
3. 全員がDXの当事者になるための動機づけを行う
4. 何度でも挑戦する部門風土を作る
5. 部下・メンバーの能力を生かす支援をする (サポーターになる)

1. DXが進みやすい組織づくり

DX時代のよいチームとは


- 部下・メンバー一人ひとりが
 - DXの基本知識を持っている
 - 現状のやり方にこだわらない考え方ができる
 - 自分の考え・アイデアを遠慮なく発信することができる
 - 新しいことに積極的に取り組み、失敗を恐れない姿勢を持っている
- 管理者・リーダーが
 - 多様な考え・価値観を「まず受け止める」姿勢を持っている
 - 新しいことに挑戦することを評価し、失敗も評価する
 - 新しいことへ取り組む姿勢を最大限に支援する
 - 変化を激しむ姿勢を率先して見せる
 - 目標達成のために何でも言える部門風土をつくる
 - 「部下を管理する」意識ではなく、「部下を支援する」「部下から学ぶ」意識を持つ



5. 部下・メンバーの能力を生かす支援をする (サポーターになる)

挑戦する意識・スキルの高い部下・メンバーは

- 周りに頼らず、自分だけで解決しようとする
- 壁に当たることが増え、ストレスを重ねてしまう
- 真面目な人ほど心が折れやすい側面も…
- 心の支えとなる人 (= サポーター) が必要



管理者・リーダーが挑戦する部下・メンバーのサポーターになる

<概要>

受講対象者	●ビジネスパーソン全般
監修	●JMAMDx研究会
教材概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 想定学習時間：50分 ● 最短実行時間：25分 ● テスト数：1 ● (全10問、ランダム出題)